

## 令和 7 年度水産白書の作成方針・スケジュールについて

### 1. 水産白書について

水産白書は、水産基本法第10条に基づき、「水産の動向及び政府が水産に関して講じた施策に関する報告」として毎年国会に提出されるもの（閣議決定）。

### 2. 令和 7 年度水産白書の作成方針

#### (1) 「水産の動向」について

##### 【基本的な考え方】

水産白書は、国民に対して水産をめぐる動向について情報提供する重要なツールであり、以下を基本としつつ各年度の最新の動きを適切に反映させることとする。

作成に当たっては、「分かりやすく」を旨とし、写真・図表、用語解説、コラム等を用いるとともに、簡明で平易な記述とし引き続きスリム化を行う。また、詳細な情報については、農林水産省Webサイト等のQRコードを付す。

##### 【構成】

昨年と同様に、以下の構成とする。

- ① 水産施策上重要な特定のテーマについて掘り下げて分析する「特集」
- ② その年に起こった特徴的な事象を簡潔にまとめる「トピックス」
- ③ 我が国水産業をめぐる一般的な情勢を分析する「一般動向編」

#### 〈特集（案）〉 養殖業の成長産業化に向けた対応

近年、海洋環境の変化や水産資源の減少等の影響により、我が国の漁業・養殖業の生産量は不安定性が増加している。これに対応するために輸出も見据えた養殖生産の推進が注目されている。

このような状況から、令和 7 年度水産白書の特集では、養殖生産の拡大及び持続的な養殖生産の実現に向けた養殖業の成長産業化への取組として、育種の推進や養殖餌料・飼料の開発、大規模沖合養殖システムの実証の取組等について記述することとしたい。

（別紙 1 は特集・トピックスの構成案、別紙 2 は過去の特集・トピックスのテーマ）。

〈一般動向編（令和6年度以降の我が国水産の動向）〉

具体的な構成案は、以下のとおり（各章のタイトルは仮称）。

- 第1章 我が国の水産物の需給・消費をめぐる動き
- 第2章 我が国の水産業をめぐる動き
- 第3章 水産資源及び漁場環境をめぐる動き
- 第4章 水産業をめぐる国際情勢
- 第5章 漁村の活性化をめぐる動き
- 第6章 大規模災害からの復旧・復興

(2) 「水産施策」について

「令和7年度に講じた水産施策」及び「令和8年度に講じようとする水産施策」については、水産基本計画や予算等を踏まえて記述する。

3. 審議等のスケジュール

例年同様、5月下旬～6月上旬頃の閣議決定を目指して作業を進めることとする。なお、可能な限り「食料・農業・農村白書」、「森林・林業白書」及び「食育白書」と並行して作業を進めることとする。

	「水産の動向」	「水産施策」
7年9月	特集・トピックステーマ、作成方針、作成スケジュールの審議	
12月頃	骨子案の審議	
8年2月頃	一次案の審議	骨子案の審議、水産施策について諮問
4月頃	二次案の審議	水産施策(案)の審議
5月	答申	
5月下旬～6月上旬頃	閣議決定、国会提出、公表	

# 令和7年度水産白書

## 特集・トピックスの構成案

### 特集

テーマ：養殖業の成長産業化に向けた対応

〈構成案〉

(1) 養殖技術立国の確立

育種の推進、人工種苗向け初期餌料の開発、大規模沖合養殖システムの実証等の収益性向上の取組を記述する。

(2) ウナギ養殖をめぐる動き

ウナギの完全養殖の実用化、令和7年12月からの水産流通適正化法の適用、国際的な動き（CITES）を記述する。

(3) 国内の養殖業の様々な動きと今後の可能性

クロマグロ養殖、海藻・貝類の養殖、陸上養殖の可能性、魚粉代替飼料（昆虫や藻類等）の開発への取組、世界の動きを記述する。

# トピックス

〈構成案〉

(1) IUU 漁業撲滅に向けた取組

密漁防止・取締対策、外国漁船の監視・取締、流通サイドからの規制・  
取組を記述する。

(2) 複合的な漁業の推進や養殖業の成長産業化に向けた共済の機能強化

(漁業災害補償法の一部改正について)

海洋環境変化への対応、養殖業の成長産業化への対応を記述する。

(3) 漁業の担い手の確保

①人材確保の状況と対応する施策、②漁業者による協業化・法人化に  
よる経営改善、③外国人人材の活用を記述する。

## これまでの水産白書の特集テーマ

### 【令和6年度】海洋環境の変化による水産業への影響と対応

近年の海水温の上昇、海流の変化等によるサンマ、スルメイカ、サケといった主要魚種の不漁が長期化するなど海洋環境の変化の影響がある中、海洋関係の変化の状況やそれによる水産業への影響、海洋環境の変化に対する各地での取組や施策等を記述。

### 【5年度】海業による漁村の活性化

海や漁村の地域資源の価値や魅力を最大限に活用することにより、地域の所得や雇用機会の確保等を目指す事業である「海業」について、取組の具体的な事例や、その推進のための施策等を記述。

### 【4年度】我が国の水産業における食料安全保障

ロシアのウクライナ侵略による我が国水産業への影響とその対応について、国際情勢の影響を受けた輸入水産物及び燃油・養殖用配合飼料等生産資材の価格上昇と対応、構造転換対策等水産業の食料安全保障の強化に向けた取組を記述。

### 【3年度】新たな水産基本計画（特集1）

平成14年以降に策定した水産基本計画を概観した上で、令和4年3月に閣議決定した新たな水産基本計画について記述。

#### 新型コロナウイルス感染症による水産業への影響と対応（特集2）

新型コロナウイルス感染症が水産物の需要と供給に与えた影響と、水産業における対応について記録・分析。

### 【2年度】マーケットインの発想で水産業の成長産業化を目指す

地域の強みを生かしたマーケットインの取組事例を手法ごとに紹介するとともに、マーケットインの取組を推進するために何が必要であるかについて記述。

### 【元年度】平成期の我が国水産業を振り返る

平成期における我が国水産業の変遷について振り返るとともに、令和の時代において、我が国の水産業が持続的に発展し、期待される機能を一層発揮していくためには何が必要であるかについて考察。

### 【平成30年度】水産業に関する人材育成 ～人材育成を通じた水産業の発展に向けて～

水産系の高等学校や大学等の取組や地域への連携・貢献等について分析するとともに、若手漁業者等の育成の取組を紹介しつつ、今後の人材育成の方向性について考察。

### 【29年度】水産業に関する技術の発展とその利用 ～科学と現場をつなぐ～

人工衛星等による観測技術や情報通信技術（ICT）の活用と、今後の方向性について掘り下げて考察。

## 【28年度】世界とつながる我が国の漁業 ～国際的な水産資源の持続的利用を考える～

世界の漁業の状況、国際情勢の変化、国際資源管理の枠組みと動向について分析し、責任ある漁業国として持続的利用を確保するための方向性を考察。

## 【27年度】活力ある漁村の創造と漁業経営

漁村の置かれた状況や漁業を取り巻く状況の中長期的な変化について分析し、漁業振興とそれを通じた漁村の活性化について、各地の取組事例を紹介しつつ、その課題と方向性を記述。

## 【26年度】我が国周辺水域の漁業資源の持続的な利用

我が国周辺水域の漁業資源・漁場環境・漁業生産の推移と現状、我が国及び各国の資源管理の現状と課題等について分析し、漁船漁業の持続的発展における重要課題について提言。

## 【25年度】養殖業の持続的発展

養殖業の意義・歴史・現状、養殖現場における経営・技術面での課題、販売面での取組と消費者の評価等について分析し、養殖業の持続的発展における重要課題について提言。

## 【24年度】海のめぐみを食卓に ～魚食の復権～

水産資源を国民の食料として持続的に利用することの意義、水産物消費の現状や消費者のニーズ、関係者の様々な取組について記述。また、魚食普及・食育活動の重要性及び消費者ニーズに対応する生産・流通の重要性について提言。

## 【23年度】東日本大震災 ～復興に向けた取組の中に見いだす我が国水産業の将来～

東日本大震災が水産業にもたらした被害の状況、復旧・復興に向けた政府及び自治体の対応、原発事故の影響と対応等について記述。被災地における復旧・復興の取組の実例を多く紹介。

## 【22年度】私たちの水産資源 ～持続的な漁業・食料供給を考える～

平成23年度から「資源管理・漁業所得補償対策」がスタートしたこと等を踏まえ、資源管理の意義や我が国の資源管理制度の仕組み等を紹介。今後、水産資源の持続的利用を図っていく上での課題について記述。

## 【21年度】これからの漁業・漁村に求められるもの

人口減少・高齢化の進行等様々な問題に直面している我が国の漁業・漁村について、その役割や位置づけを歴史的に振り返った上で、6次産業化の展開方向など将来の在り方について記述。

## これまでの水産白書のトピックス

### 【令和6年度】

- ① 令和6年能登半島地震からの復旧に向けた動き
- ② 太平洋クロマグロを想定した漁獲量等の報告義務の確実な履行を図るための漁業法等の改正
- ③ 赤潮による被害の継続

### ～11年間休止～

### 【平成24年度】

- ① 重要魚種（シロザケ、サンマ、ウナギ）の不漁とその対策
- ② 太平洋クロマグロの資源管理の強化～資源を将来にわたって持続的に利用していくために
- ③ 官民協働の消費拡大プロジェクト「魚の国のしあわせ」が始動
- ④ 放射性物質モニタリング調査の結果を踏まえた水産物安全対策の充実

### 【22年度】

- ① 「資源管理・漁業所得補償対策」が平成23年度からスタート
- ② 気象や海洋環境の変化が漁業に影響
- ③ 天然ニホンウナギの採集に成功
- ④ 鯨類資源の持続的な利用に向けて
- ⑤ クニマスから生物多様性を考える

### 【21年度】

- ① 未利用魚の活用～MOTTAINAI～
- ② ファストシーフード（ファストフード＋シーフード）で自給率アップ
- ③ 大型クラゲの出現
- ④ マグロ類の保存管理をめぐる世界の動き
- ⑤ 鯨類資源の持続的な利用に向けて
- ⑥ 天然資源に依存しないウナギの生産

### 【20年度】

- ① 食に対する消費者の信頼確保～水産物を中心として～
- ② マグロ資源を持続的に利用するために
- ③ 鯨類資源の持続的な利用に向けて
- ④ 研究の進展～ウナギの生産技術向上に向け、大きく前進～
- ⑤ 燃油価格の大幅な変動